

衆議院予算委員会ニュース

平成 20.2.28 第 169 回国会第 15 号

2月28日、第15回の委員会が開かれました。

- 1 平成 20 年度一般会計予算
平成 20 年度特別会計予算
平成 20 年度政府関係機関予算
- ・道路特定財源について、福田内閣総理大臣、額賀財務大臣、舛添厚生労働大臣、冬柴国土交通大臣、谷口総務副大臣、平井国土交通副大臣及び政府参考人に質疑を行いました。

(質疑者及び主な質疑内容)

佐田 玄一郎君(自民)

- ・「道路関係業務の執行のあり方改革本部」における道路関係業務の見直しの進捗状況について、冬柴国土交通大臣に伺いたい。
- ・与党において国土交通省所管の公益法人に関するプロジェクトチームを設置し徹底的に調査していくことについて、冬柴国土交通大臣はどう考えるか。
- ・真に必要な道路整備を進めるにあたって、福田内閣総理大臣の決意を伺いたい。

富田 茂之君(公明)

- ・公聴会、地方公聴会における、それぞれの地域はそれぞれの問題を抱えており、だから必要な道路を作ってほしいという意見に対して、福田内閣総理大臣はどう考えるか。
- ・財団法人駐車場整備推進機構の高すぎる役員報酬などの課題処理に対する国民の期待に、冬柴国土交通大臣はどう応えていくか。
- ・民主党の小沢代表の「予算案採決を強行するなら、徹底した審議を明記した両院議長あっせんを反故にする」という発言や対案を提出しない民主党との修正協議に対して、福田内閣総理大臣はどう考えるか。

岡田 克也君(民主)

- ・道路特定財源の一般財源化について、どう考えるか。また、そのためにはユーザーの理解を得る必要があるが、努力はしているのか。
- ・道路の中期計画において、B/Cが1.2未満の事業は行

わない旨の冬柴国土交通大臣の予算委員会の答弁は正しいのか。政府としての統一見解を求める。

- ・道路の中期計画の総事業費 59 兆円の具体的内訳は、そもそも存在しないのではないかと。真に必要な道路を造るためには、ひとつひとつ積み上げて総事業費を算出するべきではないか。

松本 剛明君(民主)

- ・道路の中期計画における、B/Cの評価基準及びその評価を事業の優先順位に反映する際、どのような要素を考慮するのか。また客観的基準はないのか。
- ・道路は、一度造り始めると最後まで建設することが自己目的化してしまうのではないかと。そうした一部分のみ建設した道路が、全国に多数見られるのは問題ではないか。
- ・高速道路の料金割引について、冬柴国土交通大臣はどう考えるか。また、どの程度の割引を考えているのか。

馬淵 澄夫君(民主)

- ・道路の中期計画の評価手法は高い需要推計値を用いているが妥当といえるのか。
- ・高速道路株式会社の道路整備計画は大臣が認可することであるが、国の関与はどの程度のものか。
- ・今後の高速道路運営は様々なリスク要因があるが、日本高速道路保有・債務返済機構のスキームが破綻することとなれば、債務負担は誰がするのか。
- ・費用便益分析 1.2 以上で道路整備と答弁していたのに政府見解として 1.0 以上とするのは一貫性がないのではないかと。

川内博史君(民主)

- ・国土交通省から民間企業への再就職者数について伺いたい。
- ・道路の中期計画の需要推計は基幹ネットワークが全て繋がった場合を想定しているのか。
- ・需要推計に用いた想定利用者モデルは実態に即していないのではないか。

笠井亮君(共産)

- ・海峡横断道路プロジェクト調査の受注先についての調査結果を早急に報告していただきたい。
- ・海峡横断道路プロジェクトの受注先の1つである財団法人海洋架橋・橋梁調査会について、道路整備特別会

計からの年度別支出額、役員の年収、内部留保の額はいくらか。

- ・P I 外環沿線協議会で出された住民等の意見については、国幹会議(国土開発幹線自動車道建設会議)に資料として提出するべきではないか。

阿部知子君(社民)

- ・道路の中期計画では救急医療施設が5年間で約1割は落とされているが、質問主意書(平成20年1月21日提出質問第13号)の答弁と相違していることについて舛添厚生労働大臣に伺いたい。
- ・救急医療ネットワークの整備においては人口密集度も勘案していくべきではないか。また省庁が連携して整備していくものではないか。

- 2 平成20年度一般会計予算
- 平成20年度特別会計予算
- 平成20年度政府関係機関予算

- ・各主査から、それぞれ分科会における審査経過の報告を聴取しました。